



お問い合わせ先

中国四国農政局高知県拠点

〒780-0870 高知県高知市本町 4-3-41 高知地方合同庁舎

☎088-875-7236

中国四国農政局農村振興部農村計画課

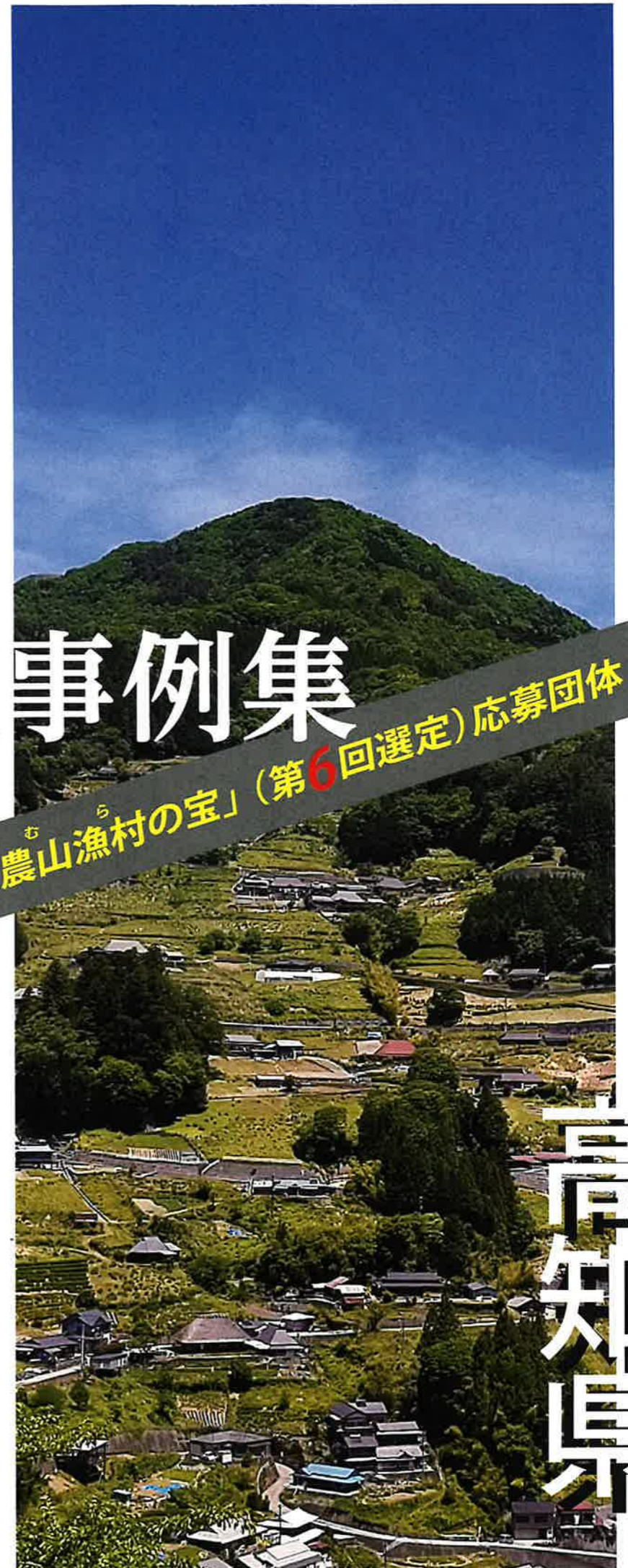
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井 1 丁目 4 番 1 号 ☎086-224-4511

取組事例集

「ディスカバ^ら農山漁村の家」(第6回選定)応募団体

令和2年3月
中国四国農政局

高知県



発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和元年度）で6回目となります。

中国四国農政局管内では220件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区と1名（全国31地区と5名）が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として21地区と3名を選定するとともに、今年度から今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として14地区と5名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和2年3月
中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について	1
○ 応募団体一覧	8
○ 応募団体位置図	9
○ 応募団体の取組事例	10

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）では、令和元年7月1日から9月2日までに、農山漁村活性化の取組として全国から931件（管内からは220件）の応募があり、10月21日に首相官邸で開催された第3回有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として31地区と今回より新設された個人部門として5名が選定されました。

12月3日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、12月4日には「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区と1名が選定され、その中から最優良地区のグランプリに島根県大田市の「株式会社 魚の屋」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった220件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和元年11月、中国四国農政局において選定委員会を開催し、21地区と3名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として14地区と5名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

選定地区オリジナルロゴマーク

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第6回選定））

株式会社 魚の屋（島根県大田市） **グランプリ受賞地区**

- 国内市場が1%しかない天然わかめの刈りとりを漁師に依頼し、それをもとに新商品開発と販売を実施。
- 天然わかめの加工処理について、加工場で行うほか、障がい者就労施設や一人暮らしの高齢者に作業の一部を委託。



天然わかめを採取している姿

浄謙寺（広島県北広島町）

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いて作ることが可能なイタリアン精進料理の取組を実施。
- 料理の提供だけではなく、住職とともに読経や説法も合わせて実施。



食前の法話風景

株式会社 三見シーマザーズ（山口県萩市）

- 規格外の魚を収入に繋げるとともに、食事に困っている一人暮らしの高齢者へ食事を宅配しようと、弁当・惣菜の加工・販売の取組を実施。
- 道の駅のレストランを運営し、鮮度の高い地元産の魚料理を提供。
- 小中学生を対象に料理教室を実施し地元の魚のおいしさを伝える。



高齢者宅へのお弁当・惣菜の宅配

新居 希予（徳島県阿南市）

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感し、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。
- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承する傍ら、地元テレビやyoutubeでの配信、学校の農業体験などにより生産現場から情報発信。



食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」
(愛媛県宇和島市)

- 愛媛県産魚のPRを行うため、産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや加工品開発、魚食の実演販売を実施。
- 「ブリ大根缶詰」や「鯛めしの素缶詰」等の開発製品を国内外で販売。



ハワイでのマグロ解体

農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県八幡浜市）

- 「農業を事業として取り組む」との考えで、グローバルGAPや6次産業化に積極的に取組ながら、みかんの農業法人を運営。
- 廃棄していた摘果みかんを調味料「塩みかん」に活用するほか、GAP認証取得支援システムを開発し、他社の取得を支援。



GAP 経営研究会を開催

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

- 山間部の傾斜地でも栽培可能で軽量なため高齢者でも作業ができる生薬を製薬会社との契約栽培で生産。
- 乾燥・調製等の加工作業は他の産地からも集荷して行き、製薬会社に納品。



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

（２） 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

農業生産法人 株式会社 D's プランニング（鳥取県大山町）

- 勤務体系はサラリーマン並みを目指し、早朝出勤した場合は夕方早く帰宅できるよう配慮されている。また、子育て世代のお母さんや年配の方でも作業ができるよう棚の高さや作業工程など工夫している。
- 制服（作業着）やホームページの作成にこだわりを持ち、今までの農業のイメージとは違う情報発信をおこない雇用の確保に努めている。
- 2018年 ISO9001 取得



日々切磋琢磨し、頑張っています！

出雲市斐川土地改良区（島根県出雲市）

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈や泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公園を活用したホタルの育成を実施。
- 米米(まいまい)田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。



保育園児と地元住民による植栽活動

株式会社 おおち山くじら（島根県美郷町）

- 町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約し「おおち山くじら」という地域ブランド産品として確立し、全国へ販売展開。
- ポトフやカレーなどの6次産業化やイノシシの内臓は、ペットフード商品の原料などに活用。
- 革製品の制作により、女性・高齢者活躍の場の創出。



地域の女性部による革製品の製作

岡山県立 岡山南高等学校商業クラブ（岡山県岡山市）

- 米トレーサビリティ制度の勉強会を行い、制度の概要や社会的役割について学ぶ。
- 「駅弁」を企画することを決め、地元企業「株式会社三好野本店」に製造を委託。
- 農業が盛んな岡山県の特性を生かした、米だけでなく、様々な県産品を使った駅弁を開発し、発売までを実現。



休校日を使って定期的に販売会を開催

合同会社 ど根性ファーム（岡山県笠岡市）

- 通年栽培が可能な青ねぎを栽培。
- 障がい者・高齢者の作業の多様性創出と収益性アップのため、カットネギの製造に取り組み、6次産業化の認定を受ける。
- 生産から加工に係る作業工程において、座って作業ができる環境を整備するなど、働き手が作業しやすい環境を整備している。



座って作業できる環境を整備

みかわてらす（岡山県矢掛町）

- 専門家のアドバイスを得ながら、地域内にある農産物を活用した商品の開発を行った。
- 商品のコンセプトは「フタを開けてすぐ野菜が食べられる」等、健康志向の高い女性をターゲットとした商品開発に取り組み、パッケージ等にまでこだわった「陽気なピクルス」を開発した。
- カフェ「えんがわ食堂」をオープンし、ピクルスを使った食事を提供。



陽気なピクルス

農事組合法人 よしやま（広島県広島市）

- 農業体験教室の実施。
- 地元企業との連携による経営の安定化、及び地区の活性化。（メーカーとの契約栽培、ミニ道の駅（Oishi 吉山）の誘致、地区内レストランとの連携）
- 地区内での積極的雇用。植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用。



農業体験教室

株式会社 敷信村農吉（広島県庄原市）

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。



農とともに、地域とともにある保育の実践

本多 正樹（広島県安芸高田市）

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

株式会社 ハートランドひろしま（広島県北広島町）

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。



養液栽培のホウレンソウと利用者

株式会社 秋川牧園（山口県山口市）

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞（日本一）受賞を筆頭に毎年受賞者を輩出。



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子

株式会社 木原製作所（山口県山口市）

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレー等、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。



開発商品の合同販促体験

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会（山口県長門市）

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブの植付による鳥獣害対策など、棚田の保全活動を実施。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。



夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

株式会社 農家ソムリエーズ（徳島県徳島市）

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。



なると金時チップス おさっち

GOTTSO 阿波（徳島県阿波市）

- GOTTSO（ごつつお）とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使い、幼稚園や小学校での食育を通じて、消費量増加への取組を行っている。
- 「グローバル GAP」、「とくしま安2 GAP 農産物」認証の優秀認定」を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO 美～ナス」の納品を目指す。



2019 年度 PR 用ポスター

西岡田 治 治（徳島県つるぎ町）

- 標高 300m、傾斜 30 度の急傾斜地の畑 20a で栽培しているソバの花が満開の毎年 9 月下旬から 10 月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成 27 年、旧暦 10 月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに 25 年振りに復活させた。



花咲くソバ畑

有限会社 赤松牧場（香川県高松市）

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲 WCS を栽培し、生産した稲 WCS を飼料として畜産農家へ供給。平成 28 年に WCS 生産組合を設立し、平成 30 年には耕種農家 14 名で、栽培面積を 20ha まで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

香川用水土地改良区（香川県高松市）

- 平成 29 年 7 月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学 4 年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線用水路内の清掃作業を実施。
- 幹線用水路（59km）について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。



香川用水幹線水路・開水路区間

阿部 隆弘（香川県三木町）

- JA 関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。



平成 30 年度 農作業支援強化研修会・琴平

四海漁業協同組合（香川県土庄町）

- 「小豆島 島鯉」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げしたハモを共同出荷することにより安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能とするため、ハモ骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行ったハモの販売（1次加工品）に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。



小豆島島鯉まつり・初出荷式

株式会社 玉津柑橘倶楽部（愛媛県宇和島市）

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリンクラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れには宿泊施設が無いため受入人数に制約があったが、JA えひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド（河内晩柑）のジュースを商品化。



玉津オリジナルみかんジュース

道の駅よって西土佐（株式会社 西土佐ふるさと市） （高知県四万十市）

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。



日本で唯一鮎市場のある道の駅

農事組合法人 上東（高知県いの町）

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせて住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。



農事組合法人上東 設立総会

集落活動センターゆすはら西推進委員会（高知県梶原町）

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）。
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用。



新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定) 応募団体 一覧 (高知県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	高知市	介良沖ノ丸環境保全の会	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	食育・教育
②		コミュニティ	安芸市	入河内大根のごそう会	伝統の継承	高齢者の活躍	その他 (地域おこし)
③		コミュニティ	南国市	農家レストラン「まほろば畑」	高齢者の活躍	その他 (地元食材の提供・活用 女性の活躍)	-
④		コミュニティ	南国市	白木谷ゆめファクトリー	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・景観 保全	-
⑤		コミュニティ	南国市	一般社団法人 エンジェルガーデン南国	6次産業化	農福連携	その他 (産官学連携)
⑥	奨励賞	ビジネス	須崎市	竹虎 株式会社山岸竹材店	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	雇用
⑦		コミュニティ	四万十市	大屋敷四万十のしずく生産者組合	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍
⑧		コミュニティ	四万十市	道の駅よって西土佐(株式会社 西土佐ふるさと市)	伝統の継承	6次産業化	企業との連携
⑨		コミュニティ	香南市	西佐古みどりの会	環境保全・ 景観保全	-	-
⑩		コミュニティ	香南市	協同組合 やすらぎ市	雇用	6次産業化	-
⑪		コミュニティ	本山町	汗見川活性化推進委員会	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	その他(住み続 けたい地域づく り)
⑫		コミュニティ	本山町	吉延営農組合	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	その他(交流人 口の拡大)
⑬	奨励賞	個人	本山町	和田 耕一	環境保全・ 景観保全	雇用	6次産業化
⑭		コミュニティ	大豊町	株式会社大豊ゆとりファーム	農林漁業、 農村文化体験	教育機関との 連携	-
⑮	奨励賞	コミュニティ	大豊町	(一財)大豊町観光開発協会	農泊	農林漁業、 農村文化体験	食育・教育
⑯		ビジネス	土佐町	株式会社 れいほく未来	雇用	企業との連携	農福連携
⑰		コミュニティ	土佐町	いしはらの里協議会	農林漁業、 農村文化体験	-	-
⑱		コミュニティ	いの町	農事組合法人 上東	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍	その他(交流人 口の拡大)
⑲		ビジネス	仁淀川町	沢渡茶生産組合	環境保全・ 景観保全	雇用	6次産業化
⑳		ビジネス	仁淀川町	池川茶業組合	雇用	6次産業化	-
㉑	奨励賞	ビジネス	中土佐町	大野見七面鳥生産組合	食育・教育	6次産業化	学生・若者の 活躍
㉒		コミュニティ	中土佐町	高知県漁業協同組合上ノ加江支所	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	食育・教育
㉓		ビジネス	中土佐町	おおのみエコロジーファーマーズ	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	教育機関との 連携
㉔		コミュニティ	佐川町	さかわの地乳プロジェクト推進会議	6次産業化	教育機関との連 携	-
㉕		ビジネス	越知町	農事組合法人 ヒューマンライフ土佐	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍
㉖		コミュニティ	梶原町	集落活動センター ゆすはら西推進委員会	ジビエ		-
㉗		コミュニティ	四万十町	株式会社 サンビレッジ四万十	環境保全・ 景観保全	雇用	その他 (地域活性化)
㉘		ビジネス	四万十町	しまんと新一次産業株式会社	伝統の継承	雇用	-
㉙		ビジネス	三原村	公益財団法人 三原村農業公社	雇用	-	-
㉚		コミュニティ	黒潮町	黒潮町佐賀北部活性化推進協議会	鳥獣被害防止	農林漁業、 農村文化体験	教育機関との 連携

けらおきのまる

介良沖ノ丸環境保全の会

～次世代へつなぐ伝統稲作～農育と環境保全～



高知ファイティングドッグスの選手と田植え



地域住民と共同で行う水路での清掃活動

経緯

- 生産者の高齢化や後継者不足対策、自然豊かな地域と伝統農業を後世へ継承しつつ新しい取組へ挑戦すること等を目的に、平成19年に「介良沖ノ丸環境保全の会」を発足。
- 平成20年「介良沖ノ丸環境保全農業組合」を設立し、連携して活動を実施。

取組内容

- 農作業体験や水田の生き物観察、地域住民等が参加する農作業イベントや収穫祭を通じ、児童が自然の大切さを理解するとともに収穫の喜びを感じる機会を作る。
- 白鷺をはじめとした水鳥の豊かな生態系を守ることを目指し、冬期湛水管理に取り組む。
- 100年以上続く二期作の伝統や技術を後世に伝えるため、二期作を継続。

活動の効果

- エコファーマーが生産した米は「白鷺米」としてのブランドを確立し、地区内の米の生産拡大だけでなく、近隣の生産者をも巻き込んだ農業の活性化を図っている。また、二期作米はゲームキャラクターとコラボ商品化したことで、普段農業に関わりのない人々から注目されることとなった。
- 農作業体験で栽培された米やジャガイモを学校給食に使用することで、子供たちの農業や食への関心が高まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

国際水準GAPも実践しており、「農業者、消費者、環境にとってGoodな農業」に向けて食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に取り組んでいます。

2 高知県安芸市

あきし

伝統の継承

高齢者の活躍

その他
(地域おこし)

にゅうがうちだいこん 入河内大根のこそう会

～「入河内大根」で地域おこし～



入河内大根の収穫体験交流



収穫体験後の調理交流

経緯

- 入河内地区だけで栽培されてきた伝統野菜であった入河内大根が、他の大根と交雑して失われる危機に直面。
- 平成18年、地域の農家を中心に入河内大根の栽培を通じた地域活性化のため、「入河内大根のこそう会」を結成。

取組内容

- 共同圃場(2a)を設け会員が共同で栽培。収穫体験や調理の体験交流など、まちとむらの交流を促進。
- 野菜ソムリエ等を通じて、県内有名ホテル、レストラン、料亭等に提供。
- 地元の指定管理者の温泉施設と連携し、「入河内大根」をメニュー化。
- 量販店や市場を通じた販路の拡大。

活動の効果

- 入河内大根を使った料理がメニュー化され、高知県を代表する伝統野菜としても知名度が向上し、地域住民の意識も変わり、入河内大根が地域の代表作物であると誇りを持つようになった。また、入河内大根が地域内外とのコミュニケーションの媒介として大きな役目を果たしている。
- 地区住民に種を無料配布し、栽培人口が17人から20人に増加(H25→H30)。栽培面積も休耕田を活用し、30aから50aに増加(H25→H30)。

応募団体からのアピール・メッセージ

入河内大根の伝承のため、栽培や調理方法の研究、レシピの配布などに取り組んでいます。

高知県安芸市入河内588(東川公民館内) Tel:0887-32-3031

3

なんこくし
高知県南国市高齢者の活
躍その他(地元食材
の提供・活用 女
性の活躍)

まほろばたけ

農家レストラン「まほろば畑」

～南国の美味しい野菜いっぱい農家レストラン～



農家レストランのオープン時の様子



農家レストランのバイキング料理盛付け例

経緯

- 農山村女性グループの交流を図り、地域の豊富な食材を生かした料理を提供する活動ができないうかが検討。
- 付加価値の高い地域特産品や郷土料理の研究・開発、地域の野菜とふるさとの味を広く宣伝することを目的に、「農家レストランまほろば畑」を設立。

取組内容

- 「道の駅南国風良里」の2階カフェレストランの定休日の火曜日を利用し、まほろば畑の女性3グループが工夫料理や郷土料理などをバイキング形式で提供。
- 料理レシピ集を2回作成。来場者にはおすすめレシピを配布。
- 平成28年から年に1回「高校生レストラン」も開催。

活動の効果

- 年間5,300人ほどの来店者があり、令和元年6月には6万人を達成。南国市産野菜の認知度アップと消費拡大により、地域の活性化にも寄与。
- 地元小学生のバイキング体験、中学・高校生インターンシップの受入や高校生レストランを開催し、食を通じて若い世代との連携を深めることで、郷土料理の伝承と地産地消の推進につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

昔なつかしい味、ほっと安らげるおもてなしを皆様にご提供いたします。あつたかほんわか農家レストラン「まほろば畑」で皆様のご来店をお待ちしています。

南国市HP掲載 <http://www.city.nankoku.lg.jp/> →観光情報

高知県南国市大桶甲2301(南国市農林水産課) Tel:088-880-6559

しらきだに

白木谷ゆめファクトリー

～山々の谷間谷間に夢がある(四方竹仙人)～



竹林整備の共同作業・竹の有効活用



たけのこ・四方竹の共同加工場完成

経緯

- 少子高齢化に伴う景観の荒廃、放任竹林の増加防止を目的に、平成23年に「白木谷ゆめクラブ」が発足。
- 平成29年に共同加工場が整備されたことを機に、組織名を「白木谷ゆめファクトリー」に改名。

取組内容

- 竹林の管理受委託により放任竹林を整備し、放置竹林の解消を図る。
- 竹林整備で伐採された竹はチップ化、パウダー化し、孟宗竹・四方竹園場へ還元。
- 収穫されたたけのこは、ボイルや寿司、乾燥たけのこなどで直販所を中心に販売。
- たけのこ掘り体験を通じて市内外と交流。

活動の効果

- 放任竹林整備作業による景観荒廃の解消。伐採により生じた竹の有効活用の体制が構築された。
- 地域農産物の加工品開発により、農閑期にも収益が得られるようになり、地域の所得向上に繋がった。
- 商品の県外への販路を拡大したことで、白木谷集落の認知度がアップし、地域の活性化にも寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

竹林整備や農産物の生産・加工・販売の体制を強化し、非農家も含めた集落全体での活性化を目指します。また、「たけのこ掘り体験」「たけのこ料理づくり体験」を展開し、集落のファンを増やしていきます。

(一社)エンジェルガーデン南国

なんこく

～働きがいのある人間らしい仕事をつくる～



ほ場でグアバの刈り取りをしています



地元の道の駅で試飲販売をしています

経緯

- 農業、6次産業化を通じて障害のある方が働き自立できる環境作りに向け、「働きがいのある人間らしい仕事をつくる」を理念とした職場作りを開始。
- 特別支援学級教諭の経験がある代表者が耕作放棄地20aを取得し、「南国にしがわ農園」を開園。

取組内容

- 2016年「(一社)エンジェルガーデン南国」と法人化し、高知県から就労継続支援事業B型として認定。
- 高知の日照時間や気候に適合し、栽培が少ないため商品価値が高く、また、加工も簡単なグアバを栽培。高知大学土佐FBCで機能性を研究。
- 農薬や肥料、除草剤を使用しない自然栽培を開始し、有機JAS認証を取得。

活動の効果

- ここで働く人は、グアバの木と触れあう農園での作業は心が気持ち良く、手をかけた分グアバが生き生きする様子に元気もらっている。
- いろいろな作業がある農園で、自分に任された仕事を責任を持ってすることで、毎日が充実して過ごしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

販路を拡大し増産することにより、就労の場の拡大、賃金の向上を図り、農福連携のモデル事例となるよう取り組んでいきます。

高知県南国市亀岩1008番地 Tel: 088-802-8801

6

すさき
高知県須崎市環境保全・景観
保全

伝統の継承

雇用

たけとら

やまぎしちくざいてん

竹虎 株式会社山岸竹材店

～地域資源「虎竹」で社内も地域も活性化～



スペインのボックスカートレース



パリ Premiere Classeに参加

経緯

- 須崎市安和でしか生育しない、竹表皮に虎模様の浮き出る虎斑竹（とらふだけ）を4代に渡り管理。
- 100年後も竹虎の里であり続けるため、ネット通販事業により竹製品の需要を高めるとともに、竹見学受け入れやユニークな竹細工の制作・プロジェクトを通し、竹文化の創造と発信に努める。

取組内容

- SNSを活用し、虎斑竹や地元の祭りなど虎竹の里の「今」を発信。
- 虎斑竹の生産・加工現場の視察に国内外の個人・団体を受入れ。
- ドイツ人デザイナーと竹家具を共同制作し、国際家具見本市へ参加。ニューヨーク、パリのファッション小物展示会にも出展。
- クラウドファンディングにより日本唯一の虎竹電気自動車「竹トラッカー」を制作。

活動の効果

- 巨大水鉄砲作りや虎竹電気自動車プロジェクトによりメディアに取り上げられ、虎竹と虎竹の里の知名度が向上。
- クラウドファンディングの返礼品の虎竹の里ツアー（竹の伐採・加工体験、近辺観光）を通して地域の魅力が拡散。
- 海外展示会への出展により、台湾、タイからの団体旅行や海外からの商談が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域資源としての日本唯一の虎竹の価値を高めることで地元で雇用と活力を生み出し、虎竹の里を発展させていきたいと思っています。

高知県須崎市安和913-1 Tel: 0889-42-3201

おおやしきしまんと
大屋敷四万十のしずく生産者組合

～野生鳥獣に強い集落づくり～



金網柵設置勉強会



取組事例発表

経緯

- 獣害により生産意欲が減退する中、「なんとか集落全員で被害を無くそう、自分達の集落は自分達で守ろう」と活動を始動。
- 平成27年8月に大屋敷四万十のしずく生産者組合を設立

取組内容

- 県、市役所、関係機関と一緒に野生鳥獣に強い集落づくり事業の説明会や被害状況調査を実施。
- 集落全体で捕獲や防護柵の設置。
- 地域の特産農水産物を個人向けの他、東京都内の飲食店やスーパーに出荷。

活動の効果

- 「漁網で獣害0」をキャッチフレーズに集落全員で漁網を設置した結果、被害は激減。鳥獣による被害はほぼゼロに。
- 生産者組合の設立により地産外商に注力。山菜・野菜・果樹・米に加え川エビ・鮎・鰻・猪肉なども販売し、組合員の励みとなる。

応募団体からのアピール・メッセージ

野生鳥獣に強い集落を作るには、被害状況の把握や環境整備、地域住民同士の協力、各関係機関や鳥獣被害対策専門員との連携が不可欠です。個人では困難なことも集落で団結すれば可能になります。鳥獣被害対策は地域づくりです。地域が一つになって取り組めるよう働きかけています。

高知県四万十市竹島4294-1(JA高知幡多幡東営農センター) Tel:0880-31-5301



にしとさ

にしとさ

道の駅よって西土佐(株式会社 西土佐ふるさと市)

～希少な四万十川天然鮎の価値を未来に！～



日本で唯一鮎市場のある道の駅



イタリアのスターワイナリーと協定を結ぶ

経緯

- 最後の清流と呼ばれる四万十川。そこで取れる天然鮎は、美しい四万十の自然の象徴。
- しかし、漁師の減少、鮎の減少等、四万十川・天然鮎を取り巻く課題は年々深刻化。
- 環境と経済の両面から天然鮎と四万十川の価値を更に高めることで未来の世代に繋げる活動を2016年から開始。

取組内容

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。

活動の効果

- 活動を通じて鮎の価値を再認識。事業体を超えて関係者が一丸となり、鮎以外の地場産品の価値を再発見する取組に進展
- 天然うなぎでワインを楽しむイタリアのコマッキオとフレンドシップ提携を締結。また、鮎のコンフィに合うワインの産地であるフランスにもアプローチする中で、四万十川の価値復活に賛同してくれる外部の仲間と、川の価値、鮎の価値の向上、若手の未来開拓に挑戦する流れが生み出されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

四万十の鮎も世界のワインも、同じ「世界のローカル」の魅力であり味わい。自然とそこに住まう人の協働の産物が世界の色々なところでまた重なり、進化をしていければと考えています。

にしきこ

西佐古みどりの会

～地域住民が一体となった農村環境づくり～



アジサイの植栽の維持管理活動



見事に咲くアジサイ

経緯

- 平成21年6月に地元自治会を中心として「西佐古みどりの会」を設立し、農村環境保全の一環として景観形成・生活環境保全活動の取り組みを開始。
- 農業者・地域住民・団体が一体となった体制をつくり、農地維持・地域資源の向上に取り組む。

取組内容

- 前年度3月に点検活動を実施し、結果に基づき年度活動計画を策定。農用地・水路・農道・ため池の草刈り及び水路・側溝の泥上げを実施。
- 毎年3回(5月・7月・10月)、自治会が中心となり、地域住民と連携したアジサイの植栽・剪定・草刈り・清掃等、きめ細やかな活動で景観形成に貢献。

活動の効果

- 地元の農業者だけでなく土地持ち非農家や地区の団体と協力して農道・水路の草刈り等の維持管理を行うことで地域の団結力が深まる。
- 農村環境保全活動によるアジサイの植栽活動により地域住民との交流も図られるなど、高齢化で厳しい状況の集落に明るい希望を与えた。
- アジサイの植栽が地域の観光スポットになるなど地域内外の住民の交流の場が広がり、地域の活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

開花中の6月には、1.2kmに及ぶ約19,000株のアジサイを、地元だけでなく県内外から多くの愛好者が観賞に訪れます。家族連れや友人の方と一度のんびり歩いてみませんか？

高知県香南市野市町西佐古534 Tel:0887-56-2233

協同組合 やすらぎ市

～「ここでしか買えない商品」で地域を元気に！～



農産物直販所「やすらぎ市」



やすらぎ市の店内

経緯

- 農家の高齢化と後継者不足により衰退傾向にある地域農業を活性化するため、平成10年にJA土佐香美女性部夜須支部が良心市として活動をスタート。
- 平成23年度に「協同組合やすらぎ市」として法人化。

取組内容

- 農産物の有効活用と消費者との交流、会員の協同活動による所得の向上と併せ、地域農業の振興への寄与を目的に活動。
- 夏場の品薄を補うため、人気の高いメロン・スイカ・トマトを活かした「ここでしか買えない商品」を開発。また、季節の食材に合わせた数十種類のパンを開発。
- 直売所視察、栽培講習会・表示講習会、生産者が売り場に立つ店舗研修等を実施。

活動の効果

- 上級品はデパートや市場へ高額販売、中級品はやすらぎ市で安定販売、下級品は加工用原材料として有効活用という効率的な販売が可能となった。
- 遠くからの顧客を獲得することができ、消費者と農家の交流が深まった。
- 少量からでも出荷できることで高齢者や小規模農家の営農意欲が高まり、直売所や加工場での雇用の場が確保できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも地元の特産品を使った新商品を開発し、香南市の農産物の魅力を県内外に広げて行きたいと思っております。是非やすらぎ市に来てください。

あせみかわ
汗見川活性化推進委員会

～地域の拠点清流館で継続する地域づくり！～



平成20年5月から旧小学校を宿泊施設として運営



汗見川に大勢の人が集まる川遊びイベント

経緯

- 昭和47年に、地域を流れる汗見川を美しくする会を結成し、次世代につなぐ景観づくり、人づくりを実施。
- 平成13年より、過疎・高齢化や鳥獣被害が進む中、地域住民が地域の継続と活性化を目指した交流事業や景観活動を開始。

取組内容

- 植栽伐採による河川沿いの景観整備やツツジツアー、地域運動会などを実施。
- 廃校活用の体験宿泊施設「汗見川ふれあいの郷清流館」でのソバ打ち、ピザ焼きなどの農林業体験、都市農村交流、景観づくり活動などを実施。
- 移住者、地域の女性等によるシソを活用したアイス、ドリンクの商品化。

活動の効果

- 地域拠点の「清流館」は、高知県で集落活動センターの第1号として開設、6集落の連携や次世代リーダーの育成に結びついている。
- 新たな特産品の開発、その開発を担う女性グループの発足、農山村体験指導者の育成等により担い手が増加し、活動が活性化した。
- 高校・大学との連携、地域外団体との協働により魅力ある地域づくりが推進。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域では、清流館を拠点に都市農村交流・商品化の推進で地域ビジネスづくりを進めるとともに、健康講座・運動会など地域でのコミュニティ活動で流域住民参加による地域の総合力を推進し、取組が継続する地域を目指しています。

よしのぶ
吉延営農組合

～吉延の自然・棚田の原風景を将来へ～



吉延集落の棚田



田んぼアート田植え作業の様子

経緯

- 平成12年に中山間地域等直接支払制度の参加をきっかけに、地域の農地を地域で守っていくという意識が醸成。
- 共同で農道の舗装や機械の購入・利用をすすめ農村環境の保全や持続可能な営農体制の確立をはかり、平成19年1月に吉延営農組合を設立。

取組内容

- イノシシの水稲被害が増加。国からの交付金を活用し、防護柵を設置。
- 営農組合の共同機械の整備や集落内へのライスセンターの設置など稲作の協業化と農作業受託。
- 高知大学や各関係機関と連携し、田んぼアート、棚田コンサートや棚田散策ツアーを実施。

活動の効果

- 共同機械の整備や農作業受託、鳥獣被害防止対策など、高齢農家も中山間地域等直接支払制度に参加しやすい体制作りなど持続可能な営農に繋がっている。
- 地域資源である棚田を活かしたイベントの実施や棚田を見渡せる展望台と駐車場を整備、県内外からも人が訪れるようになった。
- 加工品開発、地域の伝統行事も当組織が中心を担うなど、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりができ、他地域のモデル的な組織となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農地の保全活動にとどまらず、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりを見せ、集落になくってはならない組織となっています。組織の体制強化や人材確保に努め、農村環境の維持・発展を目指します。

高知県長岡郡本山町本山504 Tel:0887-76-3916

13

もとやまちょう

高知県本山町

環境保全・景
観保全

雇用

6次産業化

わだ こういち

和田 耕一

～ここには、未来に残したい、田舎がある！～



ブランド米「土佐天空の郷」を提案する



田んぼアート田植え作業の様子

経緯

- 平成15年本山町農業公社へ派遣され町の農業の厳しさに直面、農村の暮らしを守るためにもコメのブランド化を進めなければならぬと活動を始める。
- 平成19年度に本山町特産品ブランド化推進協議会を設立。

取組内容

- コメのブランド化に向け、専門家の招へいや都市での試食販売、栽培技術の向上を図りながら「求められるコメ」を追求。
- スマート農業を展開し、労力軽減やデータに基づく栽培マニュアル作成。
- 煎餅、甘酒、玄米グラノーラなどの商品開発。
- 田んぼアート・棚田コンサート・かかしアート・食材名人に出会うツアー・棚田散策コースの設定など、産地を訪れるきっかけづくり。

活動の効果

- 二度の食味日本一の獲得。ブランド米「土佐天空の郷」が定着し、活動以前の30kgで6,500円であった価格を10,250円まで高めている。
- ブランド米の規格外米を加工し商品化したことで、コメだけではなく地域ブランドとして「土佐天空の郷」が広がりを見せている。
- 消費者や販売者が産地に訪れるきっかけを創り、農家とふれあうことで心に根付くブランドへ成長している。

応募者からのアピール・メッセージ

地域で協働し本気でブランド化の取り組みを実践してきたことで棚田への関心が高まり、荒廃の速度は確実に緩やかになっています。後継者となる若手生産者が増え始める嬉しい話題も聞かれる様になってきました。魅力のある稲作農業の確立に立ち止まることなく棚田保全に繋げていきます。

高知県長岡郡本山町北山甲268-5 Tel:0887-76-4333

おおとよ

株式会社大豊ゆとりファーム

～農地を守り、地域を守る～



農作業受託:稲作



クールベジタブル野菜販売イベント

経緯

- 過疎・高齢化による担い手不足や労働力の低下が顕著になり、農地・地域を守ろうと、平成8年に第3セクターの株式会社を設立。
- 農作業の受託から開始し、平成17年より農地を借り入れ、米の生産を開始。平成22年からは「クールベジタブル」の生産販売を開始。

取組内容

- 水稻の農作業受託。
- 借入農地で、水稻と野菜を生産し、農地保全と地産外商に取り組む。
- 大学生やドラッグストアとコラボした環境にやさしい野菜「クールベジタブル」のPRや農作業体験ツアーを開催。
- 農業研修生制度を活用し、人材の育成・確保。

活動の効果

- 農作業の受託や農地の借り入れにより農地の保全が図られた。
- 「クールベジタブル」の生産がきっかけで、大学生や地域外との交流により地域が活性化。加えて、ドラッグストアとの連携を図り、環境と健康の両面から消費者へのアプローチを行っている。
- 農業研修生が地域で就農することにより農地の保全に繋がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

大豊町で地域の農家と共に頑張っています。一緒に農業をはじめませんか。大豊町特産品の「棚田米」・「クルベジ野菜」を手にしませんか。

おおとよちょう

(一財)大豊町観光開発協会

～山の暮らしを宝にかえて交流で地域を元気に～



ラフティング体験



大学との連携によるモニターツアー【お茶摘み体験】

経緯

- 交流の活発化による地域の活性化を目指して、山村における「生活の営み」や「生産の営み」などの人や地域が持つ魅力と、ラフティングやトレッキングなど自然を生かしたアウトドアスポーツの魅力を経験型教育プログラムとして構築し、(一財)大豊町観光開発協会を窓口として販売。

取組内容

- 海外からの民泊受入に向け、経験をもとに体験プログラムの改善を図る。
- グリーンツーリズムインストラクターを養成し、体験実施者のスキルアップを図る。
- 吉野川ラフティング体験の予約簡便化を図るため、「大豊町ラフティング部会」を設立し、予約のワンストップ窓口化など、受け入れ態勢を整備。

活動の効果

- 教育旅行の受入人数が平成28年度から徐々に増加。令和2年度は既に12校、1,459人の予約を受注。
- 養成したグリーンツーリズムインストラクターが地域のリーダーとなり、体験プログラム実施者としての意識の向上やメンバー全体のスキルアップにつながった。
- ラフティング受入の体制整備を行った結果、受注件数が大幅に増加。
- 教育旅行を対象とした民泊受入を推進する中で、一般旅行者にも範囲を広げる家庭が出てくるなど、交流を活発化することにより地域に活気が生まれる。

応募団体からのアピール・メッセージ

嶺北地域は山里の暮らしが今もなお残っている自然豊かなところ。また、「土佐あか牛」や「はちきん地鶏」、「棚田米」など食の魅力も高い地域です。暮らしの体験で知る知恵や技、人と人との交流の素晴らしさを是非、体験してください。

高知県長岡郡大豊町津家1626 Tel:0887-72-0453

株式会社れいほく未来

～高齢農家の営農サポート～



ブランド米の生産 作業受託



土佐あかうしの飼育状況 一貫経営

経緯

- 担い手の高齢化や後継者不足に加え、農業資材の高騰や販売価格の低迷など経営環境が厳しくなり、耕作放棄地の拡大による地域農業の衰退が危惧。
- 生産農家の作業補助を行うことで、今後も安心して農業に取り組むことができる体制支援のためのJA出資法人として設立。

取組内容

- 有休ハウスや農地を借り受け自ら野菜・水稻を栽培するほか、高齢農家の基幹作業を受託し作業を軽減。
- 農業研修生を受け入れ担い手を育成。
- JAから米粉工場、精米施設を受託し、商品開発や販路拡大に取り組み、農業所得の向上とブランド化を推進。
- 土佐あかうしの一貫経営による畜産振興に寄与。

活動の効果

- 作業受託による高齢農家や兼業農家の労力補完で、耕作放棄地の防止や農地保全に寄与。
- 土佐あかうし優良雌牛を導入し、子牛が高値で取引されるようになった結果、繁殖農家の増頭に向けた機運が高まり、規模拡大と親元就農が促進。
- 県内外の研修生を受け入れ、雇用就農、新規就農者を創出。

応募団体からのアピール・メッセージ

明るい農業の未来と地域貢献を経営理念とし、住みよい地域と豊かな社会づくりに取り組み、地域社会とともに成長します。雇用の創出や農地の保全により産地を維持し、地域農業の担い手として地域を守り育てます。

高知県土佐郡土佐町土居70-1 Tel:0887-82-1677

いしはらのさと

いしはらの里協議会

～つどう ふれあう 助け合う いいとこ石原～



やまさとの市



サマースクール

経緯

- 過疎高齢化が進むなか、ガソリンスタンド休止、生活店舗の縮小などを契機として住民によるワークショップを開催。
- いしはらの里協議会を設立し、旧石原小学校を拠点に集落活動センターを開所、小さな拠点づくりに果敢に挑戦中。

取組内容

- 集落活動センターを拠点に、農産物・加工品の直販や生活店舗・ガソリンスタンドの運営、旧小学校を宿泊施設に改装した宿泊事業、各種交流事業などを実施。地域の伝統行事の継承。
- 地域資源である木材の活用策としてモデル住宅を建築し、山元から大工さんまで一貫した木材活用策へ、人材育成に取り組む。
- 老舗ホテルの宿泊客を受け入れ、アメゴつかみ体験や田舎料理を提供。

活動の効果

- 活動を通じ、地域のリーダーや担い手が育ち始めた。
- 地域内外の交流機会が増え、大学生の受入事業行った結果、地域行事への参加者が増え、活気を取り戻しつつある。
- 合同会社が運営する生活店舗や直販所、直販市「よさく市」等での一次産品や加工品の直販をはじめ、農林業体験等の交流事業を通じて住民の所得向上に寄与。
- 専門家の助言を得て、経済的自立による持続可能な活動の仕組みづくりを目指す。

応募団体からのアピール・メッセージ

開所以来、国や自治体、大学等から多くの視察・研修者が訪れているほか、各種フォーラム等への登壇依頼も多い。今後も積極的に交流と受入を行い、これまでに得た知見を共有していきたい。

18

高知県いのちの町

いのちの

環境保全・景
観保全高齢者の活
躍その他(関係
人口の拡大)

農事組合法人 上東

じょうとう

～協定合併による農地の維持管理体制の構築～



農事組合法人上東 設立総会



収穫期を迎えた棚田

経緯

- 平成12年度から集落ごとに取り組んでいた中山間地域等直接支払制度を平成21年度に地域で一つに統合。
- 地域の農地維持の核組織「上東地区営農組合」を平成21年に設立。荒廃農地を再生し、地域の農地を守る活動を開始。

取組内容

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせ住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。

活動の効果

- 共同機械の利用面積の増加(H21年7.6ha→H29年35.1ha)。
 - 新規作物(ニラ、加工用ワサビ等)の面積拡大(H21年1.3ha→H29年2.1ha)。
 - ユズ栽培により耕作放棄地の発生防止。
 - 「カタシの花祭り」の開催を通じてミュージシャンの山村誠一氏とつながり、共同でPAN(スティールパン)の学校運営開始。地区外の上東地区ファンが増加。
- 平成27年度多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰 中山間地域等直接支払部門最優秀賞受賞

応募団体からのアピール・メッセージ

地域住民一体で、中山間地域での農業の大切さ、農村集落の素晴らしさ、田園風景の維持に取り組んでいます。花祭り、PANの学校を見に来てください。

高知県吾川郡いの町上八川甲1934(いの町吾北総合支所産業課) Tel:088-867-2313

さわたりちやせいさんくみあい
沢渡茶生産組合

～沢渡の茶400年の歴史を次世代へ！～



お茶摘み体験ツアーのようす



ダム湖に茶園が映える沢渡地区の風景

経緯

- 400年の歴史を誇り、自然茶からやぶきた種への植栽や山林開墾で拡大してきた段々茶畑が、茶価格の低下と生産者の高齢化で耕作放棄となる畑が増加。
- 茶畑の風景を次世代に継承するためには、茶の栽培の継続が必要と活動を実施。

取組内容

- 「互いに助け合って茶づくりを守る」ため「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、沢渡のお茶(仕上げ茶)も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が(株)ビバ沢渡を設立し、仕上げ茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へも輸出。

活動の効果

- 「互いに助け合って茶づくりを守る」との理念で、茶畑と良質茶を維持。
- 秋葉祭りは、茶畑に囲まれた道を約200人の華麗な行列が練り歩く祭りで、伝統と一体化した茶畑の風景を次世代に継承していく。

応募団体からのアピール・メッセージ

沢渡地区では、若手組合員が茶の加工販売を行い、仁淀川町内にお茶カフェを開店し、更に高知市にも出店するなど、積極的な取組が行われています。地域の世代が互いに助け合って茶づくりを守り、高品質茶の生産とともに先人から受け継いだ茶畑の風景を次世代に繋げていきます。

池川茶業組合

～お茶とスイーツの共働！～



全員集合



城を基調としたカフェ外観 桜と桃の花に囲まれて

経緯

- 農家の高齢化や後継者不足により、地域の茶園の荒廃が進むとともに、ペットボトル茶の登場により荒茶の価格が低下し、農家の収入が下落。
- 労働力の有効活用、効率化、品質向上を図るため8工場を1工場へ統合し、池川茶業組合を設立。

取組内容

- 30代の担い手が中心となり工場運営や茶畑管理の中心的な役割を引き受け、地域の茶園維持に努める。
- 荒茶から仕上茶に重点を移し、仕上茶の販路拡大のため、毎週末に高知市内の量販店店頭で試飲即売を実施。
- お茶を活かしたスイーツを開発し、販売拠点となるカフェを開店。

活動の効果

- 荒茶の市場出荷から高品質な仕上茶の小売販売に重心を移したことで、収入が確保された。
- カフェには大型バスで団体も訪れ、年間2万人が訪れる観光名所となり、地域の活性化と雇用の創出につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本茶インストラクター協会主催の日本茶AWARD2018においてファインプロダクト賞を受賞した「霧の極」をはじめ、高品質のお茶販売を拡大することで生産に必要な地域の茶畑を維持し、先人から受け継いだ茶園の風景が次世代に継承されるよう努力を続けていきます。

高知県吾川郡仁淀川町坂本1696 Tel:0889-34-3877

おおのみしちめんちょう
大野見七面鳥生産組合

～七面鳥がつなぐ農林水産とスポーツのミライ～



広い空間とヒノキを活用した家きん舎



HACCP取得を目指す食鳥加工施設

経緯

- 約50年前に始まった七面鳥の生産は、昭和60年代をピークに減少し、現在は2戸の農家で生産されるのみ。
- 七面鳥の希少性や栄養面での優位性を生かし特色ある一次産業として地域振興に繋げるため活動を開始。

取組内容

- 高知大学、ノートルダム清心女子大学と連携し、七面鳥の持つ抗疲労成分を研究。
- アスリートにカラダづくりと食の必要性を発信し、七面鳥の普及拡大を図る。
- 6次産業化を推進するため、町立食鳥加工施設を増築、県版HACCP基準を満たす加工体制を構築中。

活動の効果

- 6次産業化の事例発表、小学校、高校、大学での出前授業により七面鳥事業の周知が拡大。
- 大学との連携による七面鳥肉の分析・研究により、良質なたんぱく源としての魅力を発信することで、新規事業へ展開。
- アメリカでの高校生活で七面鳥を知り、日本の体育大学でスポーツを学んだ地域おこし協力隊員を事務局に迎え、アスリート向けに販売を展開。

応募団体からのアピール・メッセージ

七面鳥を大野見地区の広告塔とし、地域の農林水産物全体の地産外商を進め、超高齢・少子・人口減少の町から生き残りモデルを模索していきます。

また、カラダを動かし、適切な食事を摂り、健康で強いカラダを維持するということを、七面鳥というたんぱく源が豊富な食材を通して、多くの人に伝えたい。人生100年に向けて。

高知県漁業協同組合上ノ加江支所

～高知県中土佐町上ノ加江漁業体験～



漁業体験の様子



料理体験の様子

経緯

- 高齢化や魚価の低迷など漁業を取り巻く環境が厳しくなるなか、地域活性化のための体験型観光の取組を開始。
- 平成15年に県の体験型観光推進のモデル地区の指定を受け、平成16年度から観光事業に着手。
- 平成19年度に県の事業から独立し、現在まで活動を継続。

取組内容

- 現役漁師と女性部の指導による釣りや籠網漁、漁師体験を実施。
- ロープワーク、漁具づくり、漁体験、和船櫓こぎ体験、食事などを基本とし、ニーズに合わせて体験メニューを組んでいる。例えば、食育目的では、通常の体験に、女性部と共に魚をさばき漁師汁を作る体験を組み込んだり、環境教育が目的なら温暖化や磯焼け減少についての座学も組み込んでいる。

活動の効果

- 初年度400人だった体験者が、現在は年平均1,800人に増加。
- 漁業者や女性部をインストラクターとして雇い入れ、漁家の収入向上につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

- 一般の旅行者なら食に重点を、学校関係なら教育に重点を置くなど、ニーズに合わせた体験メニューを組んでいます。

おおのみエコロジーファーマーズ

～皆様に愛される美味しいお米作り～



大野見小学校児童の学外・地域体験学習



寒暖差によって発生した霧と大野見の田んぼ

経緯

- 古くからおいしい米の産地として知られる大野見地区において、大野見米を通じて地域・農業の活性化に取り組む「おおのみエコロジーファーマーズ」。
- 大野見米をとおして、将来に望みの持てる産業を確立し、環境保全型農業で四万十川源流域の豊かな自然を次世代に引き継ぐ活動を行う。

取組内容

- 高知県立大学健康栄養学部の学生で結成された「COME☆RISH」と連携し、大野見エコ米のPR活動(大野見米を使用したレシピ開発、弁当、定食の販売、日曜市への出店など)を実施。
- 地域の将来を担う小・中学生に、環境保全型農業を行うほ場周辺にどんな生物がいるかを調査する「学外・地域体験学習」を実施。

活動の効果

- 学外・地域体験学習により、将来を担う小・中学生が地域に愛着を持ち、地元で就農することを考える契機となることを期待する。
- 米の栽培に使用する肥料を大野見地区で出た牛堆肥を用い、畜産施設からの廃棄物の地域内循環を実現している。
- ブランド米を栽培する農業者・団体を視察し、稲作の栽培基準や栽培方法等を見直した。

応募団体からのアピール・メッセージ

化学肥料、化学農薬を地域慣行栽培の半分に抑える環境保全型農業により、水路や河川がきれいになり、活動も徐々に実を結びつつあります。今後も活動を継続し、大野見で農業や稲作で生きていけるよう頑張ります。

高知県高岡郡中土佐町大野見吉野12 Tel:0889-57-2022

ぢちち

さかわの地乳プロジェクト推進会議

～地元のお酒は地酒、地元の牛乳はぢちち～



ぢちちトラック



佐川高校生と共同開発したぢちちプリン

経緯

- 牛乳の消費低迷のなか、酪農家と乳業会社が地元の酒造会社社長とデザイナーに相談。
- 地酒・地鶏・地ビールがあれば「地乳(ぢちち)」があっても良いのではとのアイデアから、酪農振興のみならずまちづくり・観光とも連携した取り組みを目指した。

取組内容

- 県の事業を活用し、統一したパッケージデザインを作成。
- 地乳を使った加工品を開発。「さかわの/地乳/ぢちち」で商標登録しブランド化。地乳商品の認定制度により26の商品を認定。
- 近隣市町のゆるキャラが参加して「第3回ぢちちまつり」を開催し、過去最大の約3,500名が来場。

活動の効果

- 県内のスーパー、ドラッグストアなどで商品採用が増加。
- 地元素材の地酒、茶、紅茶、しょうが等との新たなコラボにより6次産業化に発展。
- 地乳の取組により、生乳の出荷量が増え、生産者の所得向上につながった。
- さかわ観光協会でぢちちを使ったかき氷・グラタン・坦々うどんの販売開始。商品開発により、業種を超えた連携が始まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

地乳の最大限の魅力である「地元の生乳のみで製造した牛乳」という点をより効果的にPRし、売上を伸ばすことによって、酪農家・乳業会社・商店街の連携を強化し、地域活性化に繋げたい。

とさ
農事組合法人 ヒューマンライフ土佐

～生薬栽培で中山間地農業の活性化～



冬 柴胡の収穫/軽量で負担も少ない



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

経緯

- 産地間競争や輸入品などによる価格低迷が続く露地野菜から、価格が安定している生薬栽培に転換。
- 耕作放棄地の拡大防止と栽培技術の普及・面積拡大で安定収入を図り地域を活性化するため、ヒューマンライフ土佐を設立。

取組内容

- 柴胡(ミシマサイコ)、山椒、枳実(ダイダイ)の3品目を中心に生薬栽培を開始。試行錯誤の末確立した栽培方法をできる限り可視化し、契約農家間で共有。
- 水源地の森林の健全化のため、(株)ツムラ、高知県、越知町と当社の4者によるパートナーズ協定を締結し、森林再生事業だけでなく、中学校への出前授業や薬草の採取体験を実施。

活動の効果

- (株)ツムラとの契約栽培により販売が安定。軽量の柴胡は高齢者でも栽培可能で、収入がない冬季の貴重な収入源となる。
- 生薬栽培面積の拡大で、県内外の耕作放棄地拡大防止に寄与。
- 「協働の森づくり」により森林の公益的機能(水源滋養、災害抑制等)が発揮され、また、子供たちは当たり前だった町の豊かな自然が価値があることを再認識。

応募団体からのアピール・メッセージ

新規就農者が地域に根付いていけるよう、関係機関と連携して支援し、中山間地域の所得向上と活性化を図っていきます。また、子供たちに、将来生薬関連の仕事に携わったり越知町に帰ってきてもらえるよう、出前授業や採取体験などの地域交流活動を益々活発に行います。



中国四国農政局
ディスカバー
農山漁村の宝
選定地区

ゆすはらにし

集落活動センターゆすはら西推進委員会

～地域で取組む捕獲鳥獣をお金に換える仕組み～



新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー



「ゆすはらジビエ」が広がっています

経緯

- 鳥獣駆除に追われる猟師の意欲減退や担い手が少なくなっている現状、さらには、このままでは先人から引き継いだ農地や森林を守っていけないという危機感から、駆除から産業への転換を図り、人も物もお金も循環する活力ある地域づくりを目指してNPO法人を設立し活動を開始した。

取組内容

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入(平成29年度)
- 上記の運営者となる特定非営利活動法人ゆすはら西を設立(平成30年3月)
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用(平成30年4月)

活動の効果

- 獣肉解体処理施設稼働1年目にして搬入計画頭数を達成し、ジビエの安定的な供給を強みとして販路拡大につなげている。
- 自立を目指し自分たち自身が動かなければという思いで取り組んだことが評価され、自分たちの気づきや自信につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は取り組みを子供たちの食育へ、そして将来の担い手の育成へ、さらには地域内外の交流の場の創出へとつなげていきます。

27

しまんとちょう
高知県四万十町環境保全・景
観保全

雇用

その他(地域
活性化)しまんと
株式会社 サンビレッジ四万十

～農業からの地域づくり～



サンビレッジ四万十の構成員



サンビレッジ四万十の野菜を直売

経緯

- 平成11年に設立した「影野の農業を考える会」を経て、平成13年に高知県初の「1集落1農場」方式による集落営農組織「ビレッジ影野営農組合」を設立。
- 雇用の確保、営農の継続性確保のため、平成22年に農事組合法人となり、平成26年に株式会社へ移行。

取組内容

- 経営の安定化に向け畑作中心とした土地利用型園芸作物(サトイモ、エダマメ、施設ピーマン等)を導入、規模拡大など経営の複合化に取り組む。
- 若い従業員5名の育成、集落内の女性8名を臨時雇用するなど、人材育成と雇用を創出。
- 環境に配慮したソーラーシェアリング、圃場環境の美化、農道への梅の木の移植など多面的機能の増進。

活動の効果

- 女性・高齢者の就労の受け皿になっており、「地域を守る法人」「就労の場」と認知度が向上中。
- 農地集積面積は11haから15haに増加、雇用人数は3名から6名に増加(H25→H31)
- 県外からの視察も増加(多い時には3～4回/月)。
- 集落営農の広域化、集落活動センターなど農業以外の組織との連携も強化。

応募団体からのアピール・メッセージ

周年栽培の取組みや野菜の契約栽培と規模拡大、農産物の加工、観光農園等を利用した消費者との交流、商品の高付加価値化等経営の多角化に取り組むことで、地域で一人でも多くの雇用を確保し、地域農業を後世に繋げていきます。

URL:<http://village-kageno.jp>

高知県高岡郡四万十町影野1033 Tel:0880-22-8101

しまんと新一次産業株式会社
しんいちじ

～農業で四万十を元気に～



豊かな自然が残る大正地区



無農薬栽培で育った栗

経緯

- 四万十町を含む北幡地区では、約50年前まで約800t生産されていた栗が、農家の高齢化等により激減。
- 生産から加工までを地区内で行い、所得向上、雇用確保による地域活性化を目指すため会社を設立。

取組内容

- 昔から続く地域の情景と自然を守るため、超低樹高栽培による無農薬栽培を実施。
- 平成29年に加工場の建設、栗の加工販売を開始。
- 耕作放棄地を栗園に転換。

活動の効果

- 水田を栗園に転換することに対する地域住民の理解が広がり、耕作放棄地の解消にも繋がっている。
- 四万十町全体の栗生産量拡大。
- 自社の栗園の生産量、加工場におけるペースト加工販売による売上拡大。

応募団体からのアピール・メッセージ

昔から大きく甘い栗が採られてきた地域を、栗で再生し地域の人や若者が誇りをもって豊かに暮らしていけるよう取り組んでいきます。

みはらむら
公益財団法人 三原村農業公社

～目指します！！親・子・孫がゆずで暮らせる三原村！！～



収穫風景:運搬車両が乗り入れ可能



自動選果機械:青果出荷率向上、労務軽減

経緯

- 村の振興作物「ゆず」の産地化による雇用の拡大、耕作放棄地の解消を目指し、公益財団法人三原村農業公社が核となる取組を開始。
- 作業員が一体となり肥培管理に努め、青果中心の栽培を行う体系をモデル的経営とし、子育て可能な農業システムを目指す。

取組内容

- 公社中心のゆず栽培面積を拡大
- 公社が研修生へ栽培技術・農業経営を指導し、新規就農者を育成
- 自動選果機導入による青果出荷率の向上(青果率30%を目標)
- 加工用ゆずの商品化と販路拡大

活動の効果

- 公益財団法人三原村農業公社が核となりゆず栽培に取り組んだことで、職員の新たな雇用を創出(H22年度6人⇒H30年度34人)。
- 産地化に必要なゆずの作付面積の拡大(H22年度10.2ha⇒H30年度51.55ha)。
- 個人選果から自動選果機による共同選果により青果出荷率が向上(H22年度1.4%⇒H29年度23.9%)。

応募団体からのアピール・メッセージ

(公財)三原村農業公社が三原村ゆず産地化の核となり、大学と連携して肥培管理技術向上、農家所得向上、雇用創出、担い手確保につながるようがんばります。

くろしおちょう さがほくぶ
黒潮町佐賀北部活性化推進協議会

～人と資源を最大に生かした地域の活性化推進～



楮部会



柚子部会

経緯

- 佐賀北部地域の少子高齢化や人口減少に伴う耕作放棄地の拡大及び景観保全の困窮に直面。
- 疲弊が進む地域活性化のため、地域の魅力を掘り起こし、みんなが暮らしやすい地域づくりに向けた活動を開始。

取組内容

- 直販市「さが谷三里マーケット」を開催。特産品の販路拡大と週1回のあったかふれあいセンターへの昼食作りを実施。
- 「若山楮(こうぞ)」栽培の復活を遂げ、伝統工芸作物としての保存及び産地化による地域への伝承を図る。
- 耕作放棄地の有効利用及び景観維持のため柚子を栽培。柚子を活用した特産加工品の可能性を探索中。

活動の効果

- 活動規模を少しずつ大きく推進することにより、地域の自然景観及び伝統工芸作物の保存が図られる。
- 活動を通じ地域集落のコミュニティを活性化し、地域住民の生きがい作りとして福祉的役割を果たす。
- 活動の継続と発展を目指し「集落活動センター」へ移行。

応募団体からのアピール・メッセージ

6次産業推進事業の一環として、地域の特産品を生かした食品づくりを2年の開発を経て平成28年12月に発売することが出来た。今後、地方への販路を広げていきたい。